
編集後記

これまで、長期に亘り編集委員長を務めていただいた、長岡中央総合病院の五十嵐俊彦先生に、まずは深甚なる感謝の気持ちを表すとともに、今後のご指導ご鞭撻をお願いしたい。

手元にある新潟県厚生連医誌の最も古いものが、私が新潟県厚生連に入職（糸魚川総合病院に赴任）した2003年のものであり、この編集後記が既に五十嵐先生の手になるものであった。五十嵐先生が手塩にかけて育てられたものの一つが、この新潟県厚生連医誌である。医学中央雑誌に1998年3月から収載され、現在まで学術誌として育ってきたことを考えるとたいへん感慨深く、五十嵐先生をはじめとする歴代の編集に携わられた先生方のみならず、ご投稿いただいた方々がこれまで築き上げてきた業績であると考ええる。

今回発行までの期間に遅れが出たことを、まずはお詫び申し上げます。慣れない私の仕事が遅かった上に、査読をシステムとして編集に入れることにこだわったためである。まだ、十分とはいえないため、次期の編集委員長にしっかりしたシステムに仕上げていただくことに期待したい。とりあえず、今回刊行できたのは、担当の本部人事部和田次長の努力の賜物であり、ここに謝意を表する。

今回の原著論文の中で個人的に興味を引かれたものは「舌麻痺の評価方法の試案」というリハビリスタッフによるものと、「非経口摂取患者の口腔内保湿の取り組み—就寝前の口腔粘膜マッサージ効果の検証—」という病棟看護師によるものの2編であった。日常臨床・看護に基づいた研究を更に進めてもらいたい。

令和になって初めての新潟県厚生連医誌が刊行されることを感謝して筆をおく。

(文責 樋口)

以下に、昨年までの本誌に発表された論文一覧を掲載した：